

国語－１３（第３学年） 論説や報道などの情報を比較して読み、書く事例（書くこと、読むこと）
【学習活動の概要】

1 単元名	「部活動新聞」を作ろう～目的に応じて文章の形態を選択して書く～																
2 単元の目標	新聞の報道記事や論説などの表現の違いを理解し、複数の記事を組み合わせる部活動に関する新聞を作成することができる。																
3 評価規準	<p>【国語への関心・意欲・態度】 新聞の記事の表現の仕方に興味をもち、「部活動新聞」を作ろうとしている。</p> <p>【書く能力】 目的に応じて文章の形態を選択し、複数の記事を組み合わせる「部活動新聞」を作成している。</p> <p>【読む能力】 新聞の記事を読み比べ、構成や展開、表現の仕方の違いを理解している。</p> <p>【言語についての知識・理解・技能】 新聞に使われている多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書いている。</p>																
4 教材	新聞（一般紙）数紙，部活動に関する新聞																
5 主な学習活動	(1)単元の展開（全４時間）																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="351 1008 446 1064"></th> <th data-bbox="446 1008 941 1064">学習活動</th> <th data-bbox="941 1008 1420 1064">言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="255 1075 351 1243">第1時</td> <td data-bbox="351 1075 941 1243">学習の見通しをもつ。 新聞についての既習事項を思い出す。 一般紙数紙の「トップ記事」，「社説（論説）」，「コラム」を読み、表現の仕方の違いを整理する。</td> <td data-bbox="941 1075 1420 1243">○新聞を使った学習は初めてではないので、既習事項を生徒から挙げさせる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1243 351 1366">第2時</td> <td data-bbox="351 1243 941 1366">部活動について伝えたい内容をカードに書く。記事にする内容を選び、「トップ記事」，「社説（論説）」，「コラム」それぞれの特徴を考えながら紙面の割り付けを決める。</td> <td data-bbox="941 1243 1420 1366">○一般的な、「トップ記事」，「社説（論説）」，「コラム」の表現の仕方に気付かせる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1366 351 1411">第3時</td> <td data-bbox="351 1366 941 1411">「部活動新聞」を作成する。</td> <td data-bbox="941 1366 1420 1411">○新聞の読み手はだれかということについても意識させ、見出しや用語に工夫をさせる。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="255 1411 351 1612">第4時</td> <td data-bbox="351 1411 941 1612">「部活動新聞」をグループで読み合い、一般紙と比較しながら、それぞれの記事としてふさわしいかどうかを、内容や表現の仕方に着目して検討する。 意見を踏まえて、「部活動新聞」を清書する。</td> <td data-bbox="941 1411 1420 1612">○見出しの付け方等については、既習事項を生かすようにさせる。 ○第1時の学習を振り返って、互いの新聞について意見を述べさせるようにする。 ※「部活動新聞」は、単元終了後に校内に掲示する。</td> </tr> </tbody> </table>		学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	第1時	学習の見通しをもつ。 新聞についての既習事項を思い出す。 一般紙数紙の「トップ記事」，「社説（論説）」，「コラム」を読み、表現の仕方の違いを整理する。	○新聞を使った学習は初めてではないので、既習事項を生徒から挙げさせる。	第2時	部活動について伝えたい内容をカードに書く。記事にする内容を選び、「トップ記事」，「社説（論説）」，「コラム」それぞれの特徴を考えながら紙面の割り付けを決める。	○一般的な、「トップ記事」，「社説（論説）」，「コラム」の表現の仕方に気付かせる。	第3時	「部活動新聞」を作成する。	○新聞の読み手はだれかということについても意識させ、見出しや用語に工夫をさせる。	第4時	「部活動新聞」をグループで読み合い、一般紙と比較しながら、それぞれの記事としてふさわしいかどうかを、内容や表現の仕方に着目して検討する。 意見を踏まえて、「部活動新聞」を清書する。	○見出しの付け方等については、既習事項を生かすようにさせる。 ○第1時の学習を振り返って、互いの新聞について意見を述べさせるようにする。 ※「部活動新聞」は、単元終了後に校内に掲示する。	
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点															
第1時	学習の見通しをもつ。 新聞についての既習事項を思い出す。 一般紙数紙の「トップ記事」，「社説（論説）」，「コラム」を読み、表現の仕方の違いを整理する。	○新聞を使った学習は初めてではないので、既習事項を生徒から挙げさせる。															
第2時	部活動について伝えたい内容をカードに書く。記事にする内容を選び、「トップ記事」，「社説（論説）」，「コラム」それぞれの特徴を考えながら紙面の割り付けを決める。	○一般的な、「トップ記事」，「社説（論説）」，「コラム」の表現の仕方に気付かせる。															
第3時	「部活動新聞」を作成する。	○新聞の読み手はだれかということについても意識させ、見出しや用語に工夫をさせる。															
第4時	「部活動新聞」をグループで読み合い、一般紙と比較しながら、それぞれの記事としてふさわしいかどうかを、内容や表現の仕方に着目して検討する。 意見を踏まえて、「部活動新聞」を清書する。	○見出しの付け方等については、既習事項を生かすようにさせる。 ○第1時の学習を振り返って、互いの新聞について意見を述べさせるようにする。 ※「部活動新聞」は、単元終了後に校内に掲示する。															
(2)本時の学習（2/4時間）	<ol style="list-style-type: none"> ① 前時を振り返り、本時の目標（伝えたい内容を決め、記事の特徴を考えながら割り付けを決める。）を確認する。 ② 部活動について伝えたいことを、カードに書き出す（簡潔なメモでよい）。 ③ カードの中から記事にする内容を選ぶ。カードのメモの下に、より詳しい内容を書き込む。 ④ ワークシート上で大体の割り付けを決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・「トップ記事」，「社説（論説）」，「コラム」の枠は必ず設けるようにする。 ・割り付けを考えながら、記事にする内容を追加・変更してもよい。 																

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

本事例では、第3学年「読むこと」の指導事項「ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。」及び、「書くこと」の指導事項「ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。」を指導する。教材として新聞を取り上げ、記事を読み比べる。本事例では、異なる新聞の記事を読み比べるのではなく、同じ新聞の中の記事を読み比べ、例えば「トップ記事」、「社説（論説）」、「コラム」では、表現の仕方によどのような違いがあるかを考えさせるようにする。この段階が、「読むこと」の指導である。さらにこれを受け、自分が伝えたい内容について文章の形態を選択し、記事として紙面にレイアウトして、新聞を作成させる。この段階が、「書くこと」の指導である。

なお、関連する内容として、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕「(2)ア 身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと。」を指導する。これについては、書写に関する事項として取り上げて指導している。文字も、情報を伝えるための重要な手段であることを意識して活動に取り組みさせるようにする。

【言語活動の充実の工夫】

上述の内容を効果的に指導するために、言語活動を設定する。第3学年「書くこと」の言語活動例は、次の2つであり、本事例では、イの言語活動例を具体化した。

- ア 関心のある事柄について批評する文章を書くこと。
- イ 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること。

生徒は、小学校から、目的や課題に応じて、それに見合った様々な文章の形態（説明や記録の文章、報告の文章、感想や意見の文章など）があることを学習してきた。これを使い分けるようにすることが本事例の目標である。

新聞には、意図や目的に応じて様々な形態の文章が掲載されており、それぞれが表現の仕方に特徴をもっている。

ここでは、まず、複数の一般紙を読んで、同じ新聞でも、「トップ記事」、「社説（論説）」、「コラム」によって書き方が異なることを理解させる。一般に、「トップ

記事」には、その日の大きな出来事などが取り上げられ、日時や場所、出来事の内容などが客観的に書かれている。一方、「コラム」には書き手の思いが書かれており、文学的な文章に見られるような表現の技法が用いられることも多い。

このようなことを理解した上で、実際に新聞を作成する言語活動を行う。記事を決定するまでの学習は、これまでに新聞を作った経験を生かしながら進めさせる。そして、紙面の割り付けを考えて実際に記事を作る段階で、第1時の学習と関連させ、目的に応じて文章の形態を選び、表現の仕方を工夫して書かせるようにする。グループで読み合う際には、「トップ記事」、「社説（論説）」、「コラム」の内容と表現の仕方の工夫について、互いに説明させることも効果的である。

新聞を作る活動は多くの教科等で行われているが、それぞれの記事の目的が明らかでないものも見られる。目的を明確にし文章の形態を選んで書くことを、国語科としてしっかり指導したい。

学習したことを基に、「部活動新聞」のどこに何を載せるのかを考える。

